

ICT の利活用による多言語バーチャルコミュニティ空間の形成に関する研究開発 (082301010)

Research and development of multilingual virtual community creation by profit use of ICT

研究代表者

梅村 匡史 札幌国際大学

UMEMURA Masashi Sapporo International University

研究分担者

川名 典人[†] 小森 良隆^{††} 名畑 圭啓^{†††}

KAWANA Norihito[†] KOMORI Yoshitaka^{††} NAHATA Keigo^{†††}

札幌国際大学[†] 株式会社あしる工房^{††} 株式会社ネットバズ^{†††}

Sapporo International University[†] ASHIRLABO Co., Ltd^{††} NETBUZZ Co., Ltd^{†††}

研究期間 平成 20 年度～平成 21 年度

概要

ネット上にバーチャルなコミュニケーション空間を創出し、その空間で地域に密着した情報の送受信を目標とした。その際、構築と運営にかかるコストをできるだけ廉価でかつ使用言語にとらわれることの無いような仮想空間の形成を目指した。使用言語にとらわれることなく、廉価で構築と運営を行うバーチャルなコミュニケーション空間の形成に関しては目的を達成した。旭川地区での実践では双方向のコミュニケーションが行われ、おおむね目的を達成したが、ニセコ地区においては運営方法に課題を残した。

Abstract

The purpose of the project was to create a virtual community on the web where local information could be sent or received actively. The aim was to keep construction and management costs as low as possible. Also, a multi-language system was installed on this community site so that anyone in the world could access it.

Considering the construction of a virtual community with cost efficiency in a multi-language system, this project was deemed successful. In the region of Asahikawa, interactive communication took place frequently. However, it became clear that the region of Niseko had some management problems.

1. まえがき

本研究は、ICT を利活用し地域の交流人口を増加させ地域の活性化、経済の活性化を図ることを目的としている。地域を活性化することは、多くの地域での共通の課題である。そのために多言語でのコミュニケーションが可能なバーチャルコミュニティを、オープンソースを利用としてネット上に形成することと外国語が堪能であるとは言えない地域の多くの人たちが感じている言語の障害を ICT の利活用し支援するシステムを廉価で構築することを主な目的である。また、この仮想空間を通して、地元に着した様々な情報を交換し、全世界の潜在的な該当地域のファンの増加とリアルな交流へと誘導すること、このシステムを地域で運用していくことができる人材の育成、地域での新規産業の創出が副次的目的となる。

本研究ではニセコ地区と旭川地区をフィールドとして実施したが、本研究成果は日本の多くの地域で抱える地域の活性化という課題に対して、その解決に寄与し、活用することができるものである。

2. 研究内容及び成果

前述の研究目的を達成するため、4つの研究課題を設定し、9つ成果目標(継続審査時に新たに2つ追加)を掲げた。設定課題と成果目標の表を図表1として右に示す。

廉価な地域情報の送受信のシステム構築

この研究課題を達成するため、3つのサブタスクフォースを設定した。このうち「バーチャルコミュニティを実現するためのシステムの研究開発」「システムの運用管理」の2つの項目については目標を達成した。「地域情報発信のためのコンテンツ制作」に関しては、旭川地区では一定

の成果を取めたが、ニセコ地区では課題を残した。

| 設定課題 | 成果目標(下線の項目は継続審査時に追加) |
|-----------------------------|--|
| 廉価な地域情報の送受信のシステム構築 | ・多様な情報の流通を可能とするバーチャルコミュニティサイトの開設 ・メンテナンスを含む地元でのサーバー管理の実現 ・インストール用 CD の作成を行うと共に、カスタマイズに関する簡単なマニュアルの作成 ・ニセコ地区以外でのバーチャルコミュニティサイトの構築の可能性の検討 |
| インタラクティブな情報交換 | ・常にコミュニケーションが行われるサイトの運営(通常 3000 ビュー/月、オンシーズン 5000 ビュー/月) ・テリリーでマルチメディア情報の提供 |
| 観光商品・地域交流プログラム開発 | ・約 20 商品の提供(うち 30%程度は外国人対応商品) ・地域の活性化と経済の活性化の実現 |
| ICT 利活用による多言語インタラクティブの実現の方策 | ・電子メールを利用した低遅延サポートシステムの構築 ・実来訪者の 10%(外国人は 50%)程度のサイト利用 ・リアルから 1 週間程度で翻訳を行う |

図表 1 設定課題と成果目標

「バーチャルコミュニティを実現するためのシステムの研究開発」に関しては、OS には LINUX を、CMS には最終的には WordPress 使用し、言語体系は多言語を意識し UTF8 を採用した。サーバーと固定 IP を有するネット環境が整えば、オープンソースの採用によりシステムの構築は比較的安価に行うことができた。また、2年目の研究開発で USB を利用したサーバー構築の支援ツールを開発した。「システムの運用管理」に関しては、日常的なメンテナンスに限ることにより、パソコンの管理に関する知識があれば比較

的容易に技能の育成が可能である。また、旭川地区では、レンタルサーバーを利用したことにより、管理がより容易になるとともにシステム構築がより廉価で実現できることがわかった。「地域情報発信のためのコンテンツ制作」に関しては、旭川地区では関連のサイトでの投稿数は1083件、コメント数は1566件あり、バーチャルコミュニティとして一定の成果が上がっている。しかし、ニセコ地区においては、初年度から、学校との連携、商店組合との連携、地域住民との連携を図り投稿を推進する方策を模索したが、バーチャルコミュニティの形成には至らなかった。しかし、旭川での実践をモデルに今後とも継続的に実施する体制を整えることができ、今後の展開に期待が持てる。

バーチャルコミュニティの運営管理

自発的なコミュニティの場の形成が最終目標であるが、旭川での実践では成果を上げることができた。旭川地区では、「誰にもやさしい旭川づくり隊」(2009年8月末開設)を核として、地域からの要請により「かんなねこんね」(2009年12月開設)「あさひかわ雪あかり」(2009年11月開設)のサイトを本研究の一環として立ち上げ、「紅蓮隊ブログ」と「紅蓮隊ホームページ」のリニューアルを支援した。これらのサイトで合わせて約28万件のアクセスがあり、投稿数は1083件、コメント数は1566件あった。研究当初の目標はクリアすることができ、さらに、リアルとの交流も行われバーチャルコミュニティとしての成果が上がっている。これに比べ、ニセコ地区での実践は不調であった。この大きな原因は、地域での投稿を行う体制の構築とサイト構成の不備にあったといえる。旭川地区においては、既存の活動をネット上に展開することにより、成果を上げることができた。今後のニセコ地区での展開では、実際の活動に基づく投稿を継続的に実施していくサイトとその運営体制をつくる必要がある。

観光商品・地域交流プログラム開発

当初の目標は1年目、「約20商品の提供(うち30%程度は外国人対応商品)」、2年目は「地域の活性化と経済の活性化の実現」である。約30のプログラムを策定し、14のプログラムを実際に提供したこと、これらのプログラムを提供する組織を地元で立ち上げ、それが母体となり本研究開発終了後、企業化する動きがあるかことから目的は達成したものと考えている。

1年目は、旅行業法との整合性が取れず、本格的な提供はできなかったが、2年目は、観光プログラムの開発と実施を行うために、コンドミニアムの運営会社、旅行会社等の関係者を含めた作業部会を設置して、販売ルートを含め観光商品・地域交流プログラムの再開発を行い14個のプログラムを商品提供を行うことができた。

実績は数件の催行であったが、これは、事前の告知不足が大きな原因であり、現地のコンドミニアムの運営会社から、継続の要望も強く事前の告知の方法等を改善することにより大きく成長していく可能性が高い。事実、今回の作業部会を中心に事業化に向けて動き出している。また、同地区での大きな問題となっていた交通アクセスについても、町内のタクシーと協力体制も整い、割引タクシーチケットを提供し、利用者数は3月末現在で約200件あった。

ICT利活用による多言語インタプリタの実現の方策

日本語以外での質問に対して、外国語を得意としないが現地の情報を有して回答が可能な人々への翻訳をサポートする「電子メールを利用した低遅延サポートシステム」の構築が本項目の目標である。1年目に試験運用を開始し、2年目には本格運用を開始した。最終的には、バーチャルコミュニティ上で、言語にとらわれずコミュニケーション

することを目指しているが、日本語以外の投稿が少ないため、評価にはいたらなかったが、旭川での実践で中国人、台湾人の投稿に対してのバーチャルコミュニティの参加者のコメントを見ると今後この目標を達成できると予測できる。



図表 2 研究目標と研究成果の概要

3. むすび

今回の研究開発の最大の効果はニセコ地区においても旭川地区においてもバーチャルコミュニティのサイトを活用し、事業化の動きがあることである。これは、廉価でサーバーを構築することができ、日常の保守管理が地元で行うことができるようなシステム開発を行い、ランニングコストを抑えることができた成果である。この事業が軌道に乗れば、新規雇用が生まれるとともに経済的効果も期待できる。

本研究開発が目指した地域社会と結び付いたバーチャルコミュニティ形成は先駆的な試みであった。現在成立している多くのバーチャルコミュニティはインタレストコミュニティであり、地域と結び付いたものではない。リアルなコミュニティに地域に生活するという制約を超え、オーバーラップする形でつくられる地域に根ざしたバーチャルコミュニティを活用することができれば、地域の様々なポテンシャルを生かすことができる。ユビキタスタウン構想にバーチャルコミュニティを組み合わせることによりポテンシャルを表出し地域の活性化、経済の活性化を実現できる。本システムの活用は、リアルな活動を有している多くの地域にとって有用な手法であると考えられる。多くの地域での活用を熱望するものである。

【誌上发表リスト】

- [1]梅村匡史、“ICTの利活用によるバーチャルコミュニティの形成”、第23回日本観光研究学会全国大会(長野県上田市)(2008.11.23) pp.413-416
- [2]梅村匡史、“ICTを利活用したユニバーサルツーリズムの可能性に関する考察”、第24回日本観光研究学会全国大会(新座市)(2009.11.) pp.249-252
- [3]梅村匡史、“観光とバーチャルコミュニティに関する基礎的研究”、第6回観光情報学会全国大会 in 加賀市(加賀市)(2009.5.29) p.10

【報道発表リスト】

- [1]“ICTの利活用による多言語バーチャルコミュニティ空間の形成に関する研究開発現地検討委員会初会合開催”、2008/06/11
- [2]“英語でも「雑談」OK”、北海道新聞、2008年10月18日

【本研究開発課題を掲載したホームページ】

<http://www.vr-niseko.info>
<http://www.vr-asahikawa.info>